

ニラの出荷調整を担う「そぐりセンター」

◆ 日本一のニラ産地の維持・発展 ◆



令和5年10月18日
清水建設株式会社



ニラの「そぐり作業」とは

「そぐり」作業とは、収穫したニラの古い葉や傷んだ葉を除去し、鮮度保持を行う作業。
※そぐり→そぐる→そぐわない



農家の作業範囲



栽培



収穫



そぐり+計量+結束
(当社のサービス範囲)



包装



出荷



「そぐりセンター」の様子



③秤で計量後、
結束機でニラを
結束・切り揃え

①そぐり機により
不要な葉を除去
(風圧・水圧)

②機械による
そぐり残しを
チェック



「そぐり手」から機械化へ



従来：そぐり手が手作業で調整

- 農家の担当作業のうち、「**そぐり～計量・結束**」の作業が**約7割**を占める。
- 高齢化による人手不足に直面し営農者の負担となっている。

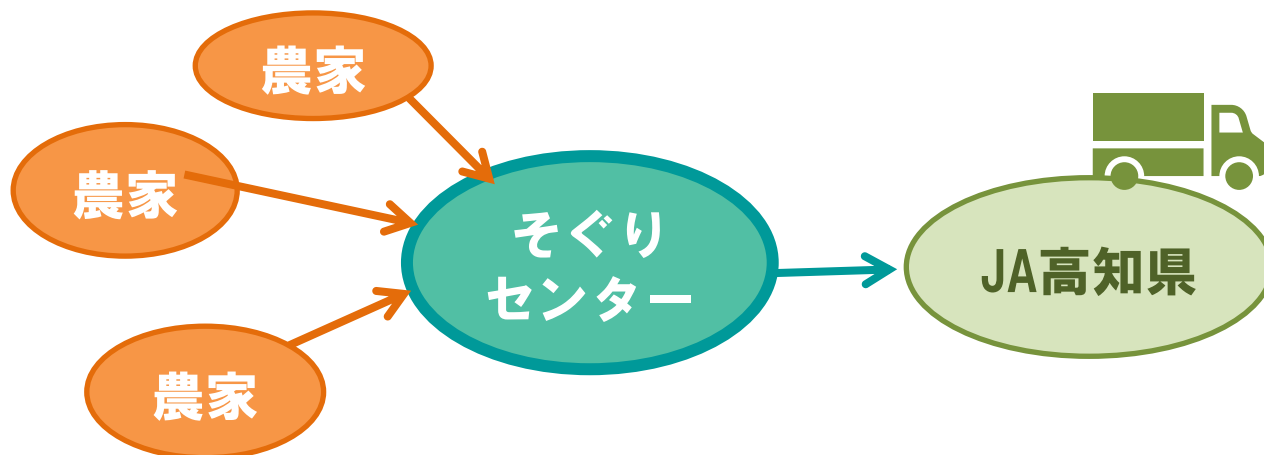
機械化することで効率的に調整

- 「**そぐり～計量・結束**」の作業を機械化し、民間が受託することで、農家の作業負担軽減と人手不足に対応し、**産地の維持に貢献**。

そぐり作業受託料金は、約180円（受込重量kg当り）
標準的な等級の市場価格は年平均で概ね700円/kg

シミズ・アグリプラス(株)の概要

- 1 所在** 高知県 香南市（こうなんし）
（JA高知県 野市支所営農センター 野市集出荷場内）
- 2 設立** R元年11月
- 3 資本金** 5千万円（清水建設95%、農林中金5%）
- 4 事業** 農産品の出荷調整受託作業等
- 5 役員等** 代表取締役（清水建設）
取締役（清水建設1，農林中金1）、監査役（清水建設）
- 6 「そぐりセンター」の整備**
 - ・建設費58百万円
（4ライン、香南市次世代型ハウス・農業クラスター促進事業）
 - ・自己資金の財源には資本金を充当
 - ・そぐりマシンの製造は、南国市の機械メーカー





ニラ生産の現状

高知県のニラを取り巻く環境

- ・ 高知県はニラの生産量が日本一（全国シェア約25%）
- ・ 一方で高齢化によりニラの出荷調整作業を行う人が減少

高知県のニラの収穫量(生産量)は、
H23年からR2年の10年間で14.4%の減少、
作付面積は8.9%の減少



このままでは産地の維持が困難

◆ニラの単収と出荷率（野菜生産出荷統計）

令和3年産ニラ	作付面積	10a当り収量	収穫量	出荷量(出荷率)
全国	1930 ha(100)	2920 kg(100)	56300 t(100)	51500 t(91%)
高知県	248 ha(13)	5770 kg(198)	14300 t(25)	13800 t(97%)



活動の経緯と特徴

平成28年8月

高知県の農業への参入可能性について、**清水建設、農林中金、高知県**の三者で検討を開始。

平成29年3月 「農業④日本一の二ろ産地拡大プロジェクト（香南市、香美市）」プラン策定
（高知県産業振興計画に基づく「地域産業クラスター」が農業関連で9地域）

平成29年7月

「園芸農業の振興に関する連携協定」の締結（高知県、農林中央金庫、清水建設）

令和元年11月

シミズ・アグリプラス（株）設立

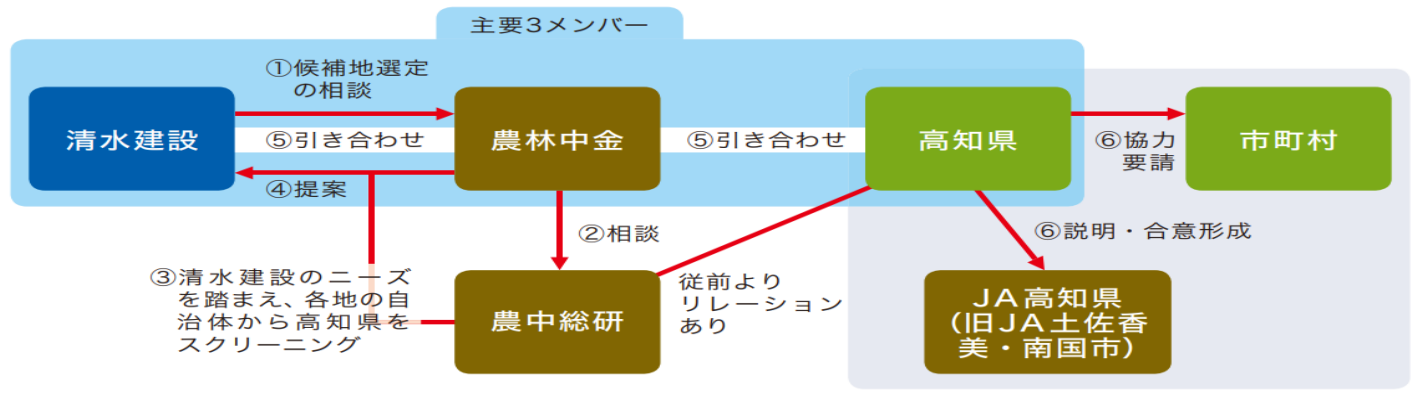
令和2年4月

シミズ・アグリプラスの稼働開始

令和4年度：延べ45軒の農家から約240トン/年の二ろを受託（売上：約28百万円）

令和4年度 高知県地場産業大賞 地場産業奨励賞 受賞

◆関係機関が集まった経緯 連携協定の協力体制



（出典：農林中金NEWS LETTER Vol.13）



地域における活動の実績・評価

1

民間企業初のニラ専門出荷調整施設

- ・ 民間企業がJAと協力してニラ専門の出荷調整施設を設置したのは全国初。
- ・ **企業のノウハウを活用した作業効率化を推進。**
(作業人員の配置や作業方法、レイアウト、風圧・水圧の調整などを試行錯誤しながら工夫)

2

人材不足の解消・作業負担の軽減

- ・ 農家の作業の約7割を占めるそぐり作業から開放し、農家がきめ細やかな**栽培管理や作付面積拡大に時間・労力を割ける**ようになった。
- ・ 農家はセンターへニラを持ち込むだけで、その後のJA出荷までの作業を**ワンストップ**で提供。

3

農家の所得向上

- ・ **ニラの等級が1階級、歩留が10%程度向上**し、**農家の所得向上に寄与。**
(JAと協議しながら、日々品質が変化するニラの作業方法を調整)



現場の変化と今後の展開

1

出荷量維持が困難な農家の出荷調整作業を代行

- ・ そぐり手の離職などで出荷量維持が困難な農家の出荷調整作業を代行
- ・ 約40軒の農家が利用。今後受託エリアや処理量を拡大
- ・ 特に、センターまでの個人出荷が困難な中山間地域に対し、低温トラックによる野菜輸送便の運航についてJAと協議中

2

刈り捨てていたニラの商品化

- ・ 従来、人手不足で刈り捨てていた（出荷できなかった）ニラを商品化
- ・ 約60トン/年の商品化・流通（受託量の約30%）

3

地域雇用の創出

- ・ 25人の雇用を創出

4

耕作面積を拡大する農家の出現

- ・ 出荷調整作業から解放されたことで、耕作面積拡大にチャレンジする農家



現場の変化と今後の展開

5 新規就農者・転作農家が ニラ栽培を選択可能に!

- ・そぐり手の確保がネックにならなくなり、ニラの生産に参入しやすくなった
- ・**新規就農者：1軒、転作農家：2軒が当社に作業委託**（当社利用農家の内）

6 ニラ以外の品目への新たな展開

- ・労働力不足に悩む多くの地域と**新たな協業可能性について検討**
※小葱の実証実験中。農業残渣の活用について県内関係者と検討。

7 地域への教育・広報活動

- **地域の小学校の社会科見学に対応**
 - ・JAと連携し小学校の社会科見学に対応（香南市立 野市小学校、4年生）
- **TV取材による高知県農業のPR**
 - ・BSテレ東「マネーの学び」、RKC高知放送「こうちeye」

まとめ ~スモールサクセスの循環~

個々の農家経営の実態

行政・JAのサポート

地域課題の具体化
& 新たな取組の提案

農林中金のネットワーク

清水建設の資金&人材

具体的な解決策の実践

効果の実感

地元とのネットワーク

新たな挑戦